

様式③

提出日 2020 年 1 月 16 日

2019 年度 琉球弧研究支援 報告書

研究テーマ「久米島の観光業」

氏名：下田 剛生・神谷 太誠

所属学部学科：法経学科

I. 初めに

日本には、小さな離島がたくさんあり、もちろんその島に暮らしを営んでいる人々もいる。現代の社会の中心から離れた島々の主な産業の一つである観光業の現状はどうなっているのか？

II. 研究の目的、動機

研究の目的は、久米島の観光業の現状、そしてこれからの発展を把握・推測し、離島の発展にこれから必要なものを見つけ出すこと。動機は、アルバイト先に久米島出身のお客さんが来て、久米島に遊びにおいでと誘われ、離島に興味を湧いたことと、その時ちょうど琉球弧研究支援のことを知って、いい機会だと思い研究に応募した。

III. 研究方法、地域、期間

事前調査 6 月～8 月迄。インターネットを使い久米島の観光名所や名産物、年間を通した観光客の来客数、その過去年との比較を大まかに調べ上げた。

現地調査 8 月 20 日～8 月 22 日迄。20 日とまりんターミナルから、フェリーで久米島へ渡航。宿泊するホテルの支配人へ聞き込み、飲食店の店員へ聞き込み。21 日久米島の観光地(比屋定バンタ展望台、イーフビーチ、ミーフガー、宇江城城跡、やんぐあー)を巡り、観光業の様子を観察、調査。22 日沖縄本島へ帰島。

その後、事後解析。

IV. 結果

調査の結果、事前調査では、久米島の名産物は、泡盛(久米仙など)や車エビなど、かなり豊富にあることが分かった。また、久米島の久米仙に関しては、2017年のデータによると県内での泡盛の売り上げでは、最上位となっている。調査中に利用させていただいた居酒屋の店員によると、久米島の久米仙よりも最近では、美ら蜆という泡盛のほうが島内の人々では人気があるらしい。

次に、インターネットで調べた久米島の観光客数(久米島町観光入域数)を、年度別で表にしてみた。

	観光客数(人)	前年度比(%)
30 年度	103,309 人	94.1%
29 年度	109,742 人	98.4%
28 年度	111,509 人	107.7%
27 年度	103,551 人	111.6%
26 年度	92,771 人	106.1%

上の表を見る限り、28 年度以降少しずつ減ってきているのがわかる。また、他の離島と比べても観光客数は、決して多いほうではない。

久米島の調査中に利用させてもらった、ホテルガーデンヒルズの支配人の話によると、支配人が昔、はての浜を観光地として開拓したという話が聞けた。現在では、多くの観光業者、渡航業者がグラスボートなどサンゴ礁鑑賞を兼ねたツアーを企画しており、ホテルなどにも窓口がある。実際、観光客の方に話を聞くと、はての浜を観光するという人がかなりいた。はての浜は、2016年にトリップアドバイザーが発表した「トラベラーズチョイス世界のベストビーチ2016」の日本国内ランキング7位にもなっており、テレビ番組の撮影や音楽のPV、CMにも使用されている。そして、この支配人は、釣り目当ての観光客相手を相手に、遊漁船をだして沖釣りを楽しんでもらうというビジネスも展開している。

V. 考察、分析

今回の調査の結果、久米島の観光業の収入は徐々に低下していることが分かった、しかし、久米島には観光業としての材料は豊富にあり、これを国内外にうまくアピールできてないのではないかと考えた。

VI. 今後の展望

久米島の今後の展望としては、豊富な観光資源をもっと多く国内外にアピールすることで観光客は増えるのではないかとと思う。

また、久米島島内にはもちろん大学はなく、進学を目指すには必ず島を出なければならない、この島を出た若者を島に呼び戻し島で働かせることができれば、今よりも栄えるのではないかとと思う。そのためには島内での仕事、求人数を増やさなければいけないので、県内の大企業が久米島に展開するといいと思う。

VII. 終わりに

今回は、久米島を調査対象としたが、ほかの離島も例外はあると思うが、観光業は低迷し

てきていると思う。理由の一つにインターネット社会になり、検索して調べてしまえば、あたかも観光したかのような気分になれることだと思う。しかし、実際そこに行かなければ味わえない本場の料理や、澄んだ空気があることも事実だ。それを実感した今回の調査を通して、久米島に実際に行ってみる価値はあると思った。そしてほかの離島もそれぞれの面白さを持っていると考えると、離島の観光業もまだまだ発展していく事はかのうではないかと思った。

VIII. 参考文献、調査協力

沖縄タイムス

久米島町観光協会

IX. 指導教員コメント

物事の表面だけではわかりにくい物事を、その本質をつかむことで理解しようとする姿勢をまず評価します。久米島観光業の現状と景気の上下をつなげて分析しようとした本研究のような努力を、これからもより拡大・深化させて続けていくことを願っています。

チェ